

折に触れ 四字熟語

NO. 232 『愛別離苦』 あいべつ りく

< 意味 > 親愛なる者と別れるつらさ。親子・夫婦など、愛する人と生別または死別する苦痛や悲しみ。仏教でいう、八苦の一つ。

< 出典 > 『大般涅槃經』
だいぱんねはんぎょう

表 言 : 愛別離苦の悲しみ

用 例 : 「君は帰るか恨めしやなうやれ」と云い、相愛の男女の愛別離苦をうたっているようである。
< 谷崎潤一郎・吉野葛 >

一 言 : 富山県で小さな男の子が風呂上がりに一人で家を飛び出し行方不明になり、とうとう海で死体となって発見された事件、また静岡県の子稚園の送迎バスに園児ひとりが残され亡くなった事件がありました。愛する者と突然にあるいは理不尽に別れざるをえなくなったご両親、肉親の心中はいかばかりか本当に痛ましいことです。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」